

校長ブースだより 2月号

平成23年2月15日

1 校内マラソン大会 うどん会



寒風の中、男女ともに元気にスタートを切り、男子（4.9km）女子（3.5km）を走り切りました。風邪やインフルエンザの流行の影響で欠席者が若干多くなりましたが、全員の生徒がそれぞれの力に応じて全力で、取り組めたことが素晴らしいことでした。

マラソンはよく人生にたとえられますが、苦しいことやつらいことから逃げることなく正面から受け止めて頑張りぬく経験は、成長過程にある生徒にとって最も必要なものだと考えます。小さなハードルを数多く乗り越える経験を積み重ねることで、強い心が育つものです。この意味で、本日のマラソン大会は参加した生徒全員にとって成長につながるものになりました。よく頑張りました。



マラソン大会終了後、PTA役員の皆様のお世話により、うどんを頂きました。クラスごとにマラソンを走り切った達成感と開放感

の中で頂く、うどんの味は格別おいしく、心も体も温まりました。
役員の皆様、本当にありがとうございました。

2 小野中新聞（卒業新聞）要旨

新校舎の建設が成り、小野中学校の新たな門出、記念の年に巣立ちゆく3年生の皆さん「卒業おめでとうございます」心からお祝い申し上げます。

みなさんは、本校3年間の課程を立派に終了し、卒業の春を迎えました。入学当初は、幼さが抜けきれず中学生活に適応していけるのか心配もした学年でしたが、2年生に進級した頃から、学習や生徒会活動、部活動全ての面で、力を発揮できるようになり「この学年、力があるぞ」と先生間の会話がよく聞かれるようになりました。最上級生となってからは、本校教育の特徴である脳科学理論による教育実践の担い手として、モジュール学習、ASK学習を強力に推進してくれました。部活動においても柔道部の全国中学校柔道大会の男子団体準優勝をはじめ、卓球部、陸上競技、バレーボール、野球部など多くの部活動で輝かしい成果をあげてくれました。更に特筆すべきは、毎日の清掃活動の姿です。新しい校舎をそのままに、後輩たちに引き継ぐのだという気持ちが如実に表れるものでした。また、学校行事における活躍も、素晴らしいものでした。体育祭では、1、2年生をよくまとめ、引っ張り、成し遂げた応援合戦の完成度の高さには頭が下がりました。合唱コンクールの歌声は、聴く者の心を震わせるハーモニーでした。みなさんは、後輩たちに自分たちの実践活動を通して伝統ある小野中生としてのあるべき姿を示してくれました。校長として心からお礼を言いたいと思います。

今後は、「人として あたたかく かしこく つよく 共に生き合う」の校是が目指す、主体的に学習にとりくみ、自ら判断し行動できる。そして、自分や他人を尊重し、思いやりを持って自立した社会生活のできる人を目指してほしいと思います。

人生は、決して平坦なものではありません。時には、困難や挫折を味わうこともあると思います。人間の真価は困難や挫折を乗り越えられるか、そうでないかで問われるものです。有名なスポーツ選手や探検家、芸術家、学者や宗教家の話をみなさんも聞いたことが

あると思います。これらの人々に共通するものは、心に高い耐性を持っていることだと言われています。人間は生きている限り、いたるところで自分の思うようにならないことにぶつかります。そのようなときかっとなったり、捨て鉢な気持ちになって、仕事を投げ出したり、悪い行動に走ったりせず、それにじっと耐えて粘り強く問題を解決していくような性質が、耐性です。この高い耐性は、本人の努力によって高めることが出来るものなのです。粘り強さや忍耐強さといった強い心は、次にあげる6つの心掛けがそれを支えているのです。

- ①他人に対する思いやりの気持ちを強く持っている。
 - ②心から深く感謝する心を持っている。
 - ③あの人のようになりたいというあこがれや目標を持っている。
 - ④将来の自分のすすむべき道について考えている。
 - ⑤不正な行為を嫌い、正しい行為を進んでしようとする気持ちを持っている。
 - ⑥常に自分の心を見つめ、反省しようとする気持ちを持っている。
- 高い耐性を身につけることは決して不可能ではありません、これらのことを一つ一つ身につけて、これからの人生を力強く切り開いていってください。